

葡萄の香



日本基督教団
酒田教会

〒998-0037
酒田市日吉町
1-1-7
Tel.0234-22-1224
牧師 塚本恭子

光は暗闇に輝く

酒田教会 塚本恭子牧師

聖書 イザヤ書9章1〜5節

ヨハネによる福音書1章1〜5節

私たちは待降節第一主日礼拝を迎えています。ヨハネによる福音書は「光は暗闇の中で輝いていた」と語り、予言者イザヤは「暗闇の中を歩む民は、大いなる光を見、死の陰の地に住む者の上に、光が輝いた」と言います。主イエスが生まれる750年も前にすでに救い主がこの世に来ることが予言されていました。ルカ福音書でも「ザカリアの預言」の中で同じように「暗闇と死の陰に座している者たちを照らし、我らの歩みを平和の道に導く。」とあります。かつてのキリスト教の共同体は、「キリストの誕生」を理解する時、予言者イザヤによつ

て語られた「メシア誕生」の約束に結び合わせて理解したのです。神の奥義は「大いなる光を見、光が輝いた」と言われている「光の存在」を私たちに送ることでした。

「暗黒と死の影に座している者たち」とは誰のことか。私たちは生きるために苦しんでいます。その原因は、社会的なもの、経済的なもの、政治的なもの、そして自然災害など、いろいろあります。人間であるが故に、肉なる苦しみ、魂の嘆きを、人間が生きることでそれ自身が、うめき苦しむ存在です。それ故に、この絶望的な人間の救いのために、救い主である「神の御子」が生まれたことをクリスマスは告げています。だから暗闇に、死の影にある人たちが「光り輝く」対象になるのです。地震・津波による震災や台風被害、原発による災害などによる人たちが、あるいはこの社会の中で働く場所のない人たちが、あるいは体がむしばまれて病と闘っている人たちが、現

在の闇の中にあると言わざるを得ない人たちに、神の御子の誕生は光輝くような存在だと言います。この世の苦難を強いられる人たちが御子の誕生で輝くのです。

ヨハネ福音書は、予言者イザヤの「メシア預言」を、神学者らしく抽象的に美しい言葉で言います。「初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。この言は、初めに神と共にあった。万物は言によって成った。成ったもので、言によらずに成ったものは何一つなかった。言の内に命があった。命は人間を照らす光であった。光は暗闇の中で輝いている。」

言とは、神の御子、救い主のことで、私たちの光として誕生すると語ります。ルカ福音書は、この言を物語で語ります。寒い冬の夜に天使が現れて、野宿している羊飼いに、暗闇を真昼のように照らしながら神の御子の誕生を告げています。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。」と。私たちの歴史に予言者による言葉であった神の存在が、肉を取って生まれるという、神が人間の歴

史に介入する出来事が起きたことを福音書はこぞって告げているのです。

ルカ福音書は天使が「あなたがたは、布にくるまって飼葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけてであろう。これがあなたがたへのしるしである。」と。ヨハネ福音書はそのことを神学的に、「言の内に命があった。命は人間を照らす光であった。」といえます。救い主は、最も弱く最も貧しい姿で私たちに与えられて私たちに永遠の命をもたらされたのです。神の御子は、言が肉を取って人間として生まれ、私たちの命として私たちの心に宿ったのであります。そのことは神が人間に対する愛で「神と人間の関係」であらわされたもの。すなわち、神が暗闇を照らす「光」である救い主として「御子」を私たちにお遣わになったのです。

予言者イザヤは「ひとりのみどり子がわたしたちのために生まれました。ひとりの男の子がわたしたちに与えられた。権威が彼の肩にある。その名は、「驚くべき指導者、力ある神、永遠の父、平和の君」と唱えられるといえます。イザヤの預言する「みどりご」には、貧しい弱い幼子ではあるが、や

がて「四つの名」が付けられている素晴らしい「男の子」、王子になるのです。この飼葉桶の幼子は、世界の支配、統治する王であると共に、私たち一人ひとりの心に宿る神でもあったのです。それ故に四つの名前は、神のそれぞれのペルソナを現わしています。

一つは「驚くべき指導者」、「靈妙なる議士」と訳されている日本語は英語では「カウンセラー」のことです。不思議な助言者と訳している人もいます。私たちのあらゆる困難な事柄に助言者として主イエスは存在するのです。悩み、苦しみを祈りそれらに応えられる方、助言者です。

二つは「力ある神」、「大能の神」、「全能の神」です。使徒パウロはローマの信徒への手紙11章で「すべてのものは、神から出て、神によって保たれ、神に向っている」と言いますが、神はその力を持つものです。

三つは「永遠の父」という名をもつ。人間の存在は有限、限りのある世界にある者です。神は永遠の時を支配し、人間の終末を支配する方です。私たちの歴史を超えた存在であると言われます。また「父」とは、民の保護者の意味で、父と子の愛の関係をいいます。

四つは「平和の君」、「シャローム」です。それは、健康で、平安で、健全を意味しています。欠けることのない十全性です。神と人間の間には「平安」あることを神が与えているのです。その時人々の間に「平安」が生まれ、私たち、一人ひとりの心に「平安」があるのです。

この四つの名を持ったものが、「権威が彼の肩にある方で、あなた方の救い主」になる方です。この方こそ、「主メシアである」と天使は夜に羊の番をしていた羊飼いに告げています。そして、天使の大軍が神を賛美して言った言葉が「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。」です。この言葉こそ、驚くべき指導者、力ある神、永遠の父、平和の君と唱えられる方が人間の世界に降誕されたことを告げているのです。これが私たちの救い主、キリストの誕生です。

(待降節第一主日礼拝説教要約)

聖書に接して55年

長老 齋藤 造酒雄

今日は10月26日、予定では昨日明治学院チャペルで卒業50年記念のメダルを貰い、ここで皆様にそのメダルを見せながら、証をする予定だったのですが、生憎台風27号で、延期になりました。さて、私は高校時代には聖書は全く知らず、英語を勉強して一流の大学にでも入ろうという頭しかありませんでした。高校時代に人生の意味を深刻に考え、ギデオン聖書を読み出したという塚本牧師とは同じ昭和15年生まれでも大違いです！

38年に明治学院に入学したのは、高校3年間NHK「ラジオ英会話」で松本亨という先生から毎日英語を聴いたからなのです。一年生の時全員が「キリスト教概説」という授業が必修でした。私の先生は小野忠信先生で、縞の背広の先生は若い頃肺結核を患い、今は、一日10時間は勉強をしているということでした。先生は「人生は死と孤独と不安に取り巻かれている」と言われ

「私は何回も自殺をしようと思ったが、肉体を殺しても死ねないと分かるのですよ・・・秋に山に登り毛布に包まって落葉の中で眠ると神に近づけるのですよ」などと言われるのを聴き、孤独だった高校時代の受験などを思い起こし、次第にキリスト教に興味を持ち、遂に先生の研究室に質問に行った。「私は仏教しか知らないのにキリスト教などを信じてよいのでしょうか？」先生の回答は「宗教とは真理を求めないので、仏教でもキリスト教でも問題はない」であった。

大学2年次では高橋源次学長の「英文学概論」がとても興味があり、水曜の2時限目に全員が英語で「主の祈り」を言っただけの講義であった。先生はマタイ6・34の Sufficient unto the day is the evil thereof. という欽定訳聖句が好きで、子供時代にアメリカで働いていた父が逝去された時、和歌山県粉河の自宅に届いた英文電報を誰も読めなかった時に、近くの有本牧師がそれを即座に読み、其の時の靈感により牧師の卒業した同志社大学に入り英語を専攻したのだったと言われた。

3年次は大学ホールで高木幹太牧師の講

演を聴きその内容に魅了させられた。キエルクゴールの生い立ちに触れられ、キエルクゴールは自分の生い立ちに Up-grund(地震)を体験したという。

直後にキャンパスで、東京山手教会で高木幹太牧師らの講演会があるとのパンフレットを貰い、そこで偉大な平山照次牧師と出会うのである。政治とも結びつくキリスト教に同感し、喜んで教会に通うようになり、毎火曜夜の聖書講義(洗礼を受けるための)などは特に楽しかった。

4年の4月22日に平山先生から洗礼を受けたのである。(以来51年もの星霜が流れた。)

授業では須藤信雄先生の「英国の宗教文学」は素晴しかった。トマス・マートンの「七重の山」を知り、今までに3回読了している。

酒田東高校に教職が決定した際に、上述小野忠信先生を再び訪れ、その旨を説明したら、非常に喜んで下さり「それじゃ君の忘れた頃、アウグスチヌスの「告白録」でも送ってやるよ、」と言って下さった。事実、3ヵ月後英書を頂いたのである。先生はその後宮城学院院長をされ、最近逝去された。50年前までの大学時代のキリスト

教との邂逅の一部を証しさせて頂いた。

(2013年10月26日 礼拝説教 要旨)

○追加説明

予定通りに11月23、4日に大学卒50年記念メダル贈呈式に出席してきました。新潟駅で乗り換え新幹線の中で、東京に近づくにつれ贈呈式と23日が50年前にケネディ大統領が暗殺された日と重なっていた偶然に興奮してきた。新橋のホテルに荷物をおき八重洲のブックセンターに向かい、Who Killed Kennedy? (誰がケネディを殺したのか。)を購入した。明学チャペルで3時半から1時間「記念音楽礼拝」があり、5時からは、大学内パレットゾーンにて鶴殿学長より22名が(10月だったら60名の出席だったそうです)学院創立者へボンの像が刻まれた銀色のメダルをかけてもらった。24日は明治学院創立150周年記念の一環として開催された野球試合「明治学院大学VS東京大学」を観に神宮球場へ行って来た。123年前にインブリー事件という向ヶ丘の「高グランド」での一高対明治学院の試合が6回で中止になったことなども知りました。全てに神の力が働いている事を知り、感謝しながら酒田に帰りました。

(11月26日記)

牧師館便り

皆様お元気ですか。「葡萄の香」第8号をお送りします。酒田の秋は雨と雷が始まり、すぐに粉雪が舞う冬の始まりです。今日吉山は落ち葉が落ち重なり、雨に濡れて、どっしりと積もっています。ものすごい稲妻が光り、愛犬が怖がって私の膝の上から動こうとしません。今年も最上川と新井田川にたくさんの鴨や白鳥が飛来して、田んぼの落ち穂をついばんでいます。

☆さて、酒田教会は、玄関にあった教会建築当時から松の木を伐採しました。それは、松の木に絡んで伸びた蔦が花を付け、スズメバチが沢山飛んでくるようになったことと、松の木の枝が途中電線に引っかかって嵐には木が傾いただけで電線が切れる心配が出てきたことです。多額のお金がかかりますが、クリスマス献金で支払いします。教会員の皆さんは木の伐採によって安心出来たようです。

☆先日幼児祝福式を行い礼拝出席者が34名で久しぶりに賑やかな礼拝をもちました。幼児たちは千歳飴に因んでお菓子をもらって帰りました。

☆今年もクリスマスとクリスマス・キャ

ンドル・サービスと行う予定です。伊藤誠一先生と斎藤りゑ長老に独唱をお願いしています。それに双葉園聖歌隊が加わって楽しいクリスマス準備をしています。夜は教会玄関でキャロリングをします。

☆牧師が最も気にする礼拝者数は増えることはなく、牧師の力不足を感じます。しかし、今年も受洗者が与えられまして、酒田に来て2名にバプテスマを授けます。また、幼稚園の教育実習生や双葉園の先生方が礼拝に出席して牧師を喜ばせています。酒田教会は双葉園の子どもたちへの養護と教育が伝道の証となっています。子どもたちは毎日讚美から始まって一日を牧師(園長)と共に過ごしています。

☆クリスマス献金を今年もお願いします。貧しい酒田教会を支えてください。支出は、牧師の特別謝儀10万円と福祉施設に送ります。振替用紙を同封しますのでよろしくお願ひします。酒田という気候に慣れないなか老牧師が頑張っています。引き続きお祈りをお願いします。(牧師 塚本恭子)

編集後記

去年の冬は二ヶ月間も肺炎を起こして悩ましました。今年はずめに予防接種を受けました。今葉害で、皮膚病で悩まされています。(T)